

北朝鮮人道支援の会 ニューズレター NO.52

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田 康彦

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1145 TEL:048-641-8203 FAX:048-647-5191

E-mail: yy2448@chive.ocn.ne.jp URL: http://www3.ocn.ne.jp/~yy-dprk/

郵便振替番号: 00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

2008年3月1日

【解説】

ニューヨーク・フィル平壤公演と米朝関係

米楽団を代表するニューヨーク・フィルが2月26日、東平壤大劇場で公演、世界15カ国に生中継された。平壤入りした一行は、記者団80人を含めて総勢400人。それだけでも画期的だが、冒頭、米朝両国の国歌を演奏、1500席を埋め尽くした聴衆全員が起立して感慨にふけた。“和解ムード”の演出では成功したようだ。

クリストファー・ヒル国務次官補はじめ、米國務省が全面的に公演実現に努力したことから、米朝和解を象徴する“オーケストラ外交”あるいは“ヴァイオリン外交”(AP通信)と形容するメディアもあったが、その後、朝鮮半島非核化をめざす米朝の話し合いが停滞、“全核計画の申告”をめぐる膠着状態にあり、平壤公演が確定した昨年秋の時点で、両国がひそかに期待した文化交流の“効果”は、いまひとつ盛り上がりや欠くものとなった。外交はムードだけで進展するわけではない。ライス國務長官も「政治的影響は過大評価すべきではない」と述べている。

「申告」の対立は、ウラン濃縮計画と核拡散(具体的には、シリアに対する北朝鮮の核施設供与)をめぐるものだが、北は昨年11月の段階で米側に“メモ”の形で提出、ウラン濃縮計画に関しても材料のアルミ合金のサンプルも手渡したとしている。しかし米側はこれを否定し、見返りとしての「テロ支援国家指定」解除に応じる気配を示していない。これでは膠着状態になるのも当然である。

米朝両国は2005年9月19日の共同声明で、「同時行動の原則」にもとづいて核廃棄と見返りの措置をとることで合意しており、とくにブッシュ政権はこの原則を守っていない。「テロ支援国家指定」解除は議会の承認を必要とし、國務省は45日前に議会に通告しなければならないが、通告はまだ行われていない。ブッシュ政権の“誠意”に北が疑心暗鬼のなるのも無理はない。中国の仲介に期待が高まっているが、あくまでも主役は米朝だ。

さいわい、寧辺の既存の核施設の「無能力化」は、ペースダウンしてはいるものの、米朝の技術者が協力して地道に作業を続けており、1年前の「合意」の枠組みが崩れたわけではない。作業は3月中には完了する見込みとされているので、それまでに「申告」をめぐる対立が克服されることを期待したい。

日朝関係打開に動き出す与野党の議員外交／福田首相は模様眺め

日朝関係は膠着状態が続いている。拉致問題をめぐって、双方とも譲歩する気配を見せていないからだ。北朝鮮は、米国を動かせば日本はついて来ると思っているのに対し、肝心の米国が動いていないからだ。福田首相は、それをいいことに、決断を先送りして模様眺めをしている。

昨年12月、自民党外交部会の下に「朝鮮問題小委員会」が結成され、最高顧問に山崎拓、委員長に衛藤征士郎、幹事長に茂木敏充、事務局長に高木毅の各議員が就任した。山崎拓氏は、「米朝は国交正常化に向かっており、福田内閣の下で拉致・核・ミサイルを包括的に解決、日朝国交正常化を実現したい」と抱負を語った。

これに呼応して、野党・民主党にも、2月、「朝鮮半島問題研究会」が発足、会長に岩国哲人、事務局長に川上義博両議員が就任、国民新党からも自見庄三郎議員が加わった。今後、両グループは協議を重ねて、超党派の訪朝団を派遣し、日朝国交正常化実現を視野に入れた議員外交を展開する方針と伝えられる。

かくして、ようやく国会に“受け皿”ができあがったが、日朝関係打開の必要性ではコンセンサスがあっても、拉致問題の“決着”に関しては、必ずしも与野党議員の意見が一致しているわけではない。北朝鮮側が死亡と発表している拉致被害者をすべて「安否不明者」と見なし、彼らの救出と生還を要求する「旧安倍路線」を堅持する「拉致議連」の勢力はいまだに侮りがたいものがある。

そうした中で、福田首相の決断が求められているが、米朝関係が「申告」をめぐる頓挫し、北京の6者協議も再開されないままの現状をむしろ“歓迎”して、時間稼ぎをしているのが首相官邸だ。福田首相は「拉致問題は私の手で解決したい」と訴えて政権の座についたものの、決断を先延ばしにして、山崎拓議員の訪朝にも待たせているという。

残念ながら日本側が望むような「拉致問題の解決」はあり得ない。双方が受け入れられるギリギリの“ウイン＝ウイン交渉術”による“政治決着”に持ち込むしかない。金大中拉致事件も日韓のも“政治決着”だった。この前例を参考にして、双方の面子と国益に配慮して大所高所からの判断をすべきだ。福田首相の決断を促したい。

【吉田 康彦】

【報告】

松本空港から 平壤に直行便を飛ばす計画

——発足30年を迎える「日朝松本市民会議」の活動

荒井 宏行

100名近い松本の訪朝経験者

「日朝松本市民会議」(「朝鮮の自主的平和統一を支持する松本市民会議」杉本文男会長)は、2月8日、松本市内で第25回定期総会を開催した。

総会には、松本歯科大学をはじめ、日朝友好運動に取り組む労働組合や政党、会員、朝鮮総連関係者ら80名が参加した。冒頭で朝鮮対外文化連絡協会からの祝電が披露されたほか、昨年10月に日朝長野県民会議第13次訪朝団の一員として共和国の農業事情を視察してきた中信農業試験場の吉田清志氏が報告し、「共和国では国民の勤勉さと基礎的な生産基盤がしっかり根づいていた」と感想を述べた。

「市民会議」は、1990年10月4日に当時の松本市長だった和合正治氏を会長に発足。以来、朝鮮の平和統一や日朝国交正常化運動、在日朝鮮人の人権擁護の活動を続けてきた。日朝関係が厳しい状況にある今こそ、「朝鮮問題は自らの問題」として、支援米や朝鮮学校支援活動と取り組んできた。今年も、日本政府の経済制裁で万景峰号の渡航が止まったままであるため、共和国への支援米を朝鮮学校におくる活動にも従事した。新年度の方針としては、長野朝鮮初中級学校「愛校賛助金」運動に取り組むこととしている。

「市民会議」は、2010年10月には結成30周年を迎える。(ちなみに、日朝県民会議は2月23日、結成30周年記念レセプションを長野市で開催した。)

総会では、この30周年に向けて日朝国交正常化の実現を以て、活動領域の見直しと組織の拡大に取り組むことを決定した。なかでも、国際便のない松本空港から平壤まで直行ツアー便を飛ばす大方針が事務局から提起された。すでに松本には訪朝経験者が100名近くおり、市民会議独自でも1995年から2002年に2次の訪朝団を派遣している。



「日朝松本市民会議」主催で支援米の田植えをする朝鮮学校の生徒たち

常任講師の吉田康彦氏が日朝関係を語る

総会では、恒例の吉田康彦常任講師による「真実を伝えたい日本の『北朝鮮』報道／北バッシングに同調しないとKYになるという妄想を排せ」と題する記念講演が行われた。

吉田氏は、2003年くらい今年で連続して6回目となる。吉田氏の講演は毎回好評で、会場には笑いが絶えない。日朝関係をとりまくホットな話題と歯に衣を着せない語り口は、共和国バッシングに嫌気をさしている会員に大きな激励となっている。

吉田氏は講演の中で「現在の日本メディアに良識は存在しない。拉致問題で国民は思考停止状態だ。福田首相は公約どおり在任中に日朝国交正常化を果たせ。米ネオコン派の巻き返しで6者協議が停滞しているように見えるが、米朝の駆け引きは一時的現象と見るべきだ。2月26日にはニューヨーク・フィル平壤公演が世界に同時中継される。これを機に流れが変わるだろう」と述べた。

【日朝松本市民会議・松本地区労働組合会議事務局長】

通信欄

会費・義援金・寄付金ありがとうございます。

以下はニューズレター前号(2008年1月1日付)刊行以来、会費・義援金を納入して下さった方々です。(納入/受領日付順・カッコ内は納付・寄託金額)

【年会費2000円プラス寄付金】

工藤羽子(30000円)、杉山 淳(3000円)、本島 勲(5000円)、広谷正男(2000円)、匿名希望(3000円)、丸谷士都子(3000円)、伊藤成彦(2000円)、片岡 健(2000円)、席占明(2000円)、趙 深宅(7000円)、木村英亮(2000円)、横山 新(5000円)、牛尾徹明(22000円)、松田章一(5000円)、上野英一(4000円)、原田太植(4000円)、高野秀男(2000円)、杉本文男(5000円)、崔 美子(4000円)、高橋博久(2000円)、宮下正夫(5000円)、荒井宏行(5000円)、内藤 薫(4000円)、中川博司(4000円)、斉藤ゆうこ(5000円)、大原美香(2000円)、清水澄子(3000円)「広範な国民連合」全国総会会場でのカンパ集金(14900円)桜井善作(4000円)、

累計人道支援基金・運用資金 104,529 円

(2008年2月末日現在)

当会の年会費2000円は「ニューズレター」の購読料金で、会員としての最低限の拠出額です。年間の編集・印刷費用、郵送料、事務経費で、ほぼ相殺されます。2000円に上乗せして送金して下さる額が人道支援の基金です。金額は自由ですが、なるべく多額のご寄付をお願いします。寄付は常時受付けています。

第2次日本語図書・日本語教材支援 キャンペーンにご協力を!

本紙前号でお知らせしたとおり、今秋をめどに第2次支援計画を進めています。図書をご寄付下さい。詳細は本会世話人・米田仲次氏(TEL 0721-53-0649)にお問い合わせ下さい。